

「教室内教師英語力評価尺度」 Can-Do 自己評価チェックリスト

普段の授業を振り返って、4段階のうちではまるもの(実施頻度)をチェックし、内省コメントを記述してください。

誘出 (Elicitation) : 頻繁に しばしば たまに 最近していない したことがない【頻度】

- 4. 生徒との応答の中で、適切に言葉を挟むなどしながら、長い発話を引き出すことができる。
- 3. 生徒との応答の中で部分的に引き出した発話をつなげ、言い直すことができる。
- 2. 生徒との応答の中で、質問を工夫し、発話を部分的に引き出すことができる。
- 1. 生徒との応答の中で、発話をうまく引き出すことができない。

内省:

促進 (Facilitation) : 頻繁に しばしば たまに 最近していない したことがない【頻度】

- 4. 生徒間のやり取りを整理してまとめた上で、発展的な発話を促すことができる。
- 3. 生徒間のやり取りを十分に観察し、適切な時に相互のやり取りを活性化することができる。
- 2. 沈黙等がある際に、発話の少ない生徒に発話を促すような質問をすることができる。
- 1. 沈黙等があっても、やり取りにうまく関与することができない。

内省:

明確化 (Clarification Request) : 頻繁に しばしば たまに 最近していない したことがない【頻度】

- 4. 生徒の発話の表面的な理解確認だけでなく、発話の意図を尋ねる質問をすることができる。
- 3. 生徒の発話の理解できた箇所を確認した上で、理解できない箇所に質問をすることができる。
- 2. 生徒の発話の理解できない箇所に絞って、発話内容を確認する質問をすることができる。
- 1. 生徒に発話の繰り返しを求めるのみで、発話を引き出すことができない。

内省:

修正 (Recast) : 頻繁に しばしば たまに 最近していない したことがない【頻度】

- 4. 生徒の発話の誤りに気づき、言い直しをした上で、気づきの機会を与えることができる。
- 3. 生徒の発話の誤りに気づき、その場で言い直しをしてフィードバックすることができる。
- 2. 生徒の発話の誤りには気づくが、言い直しをしてフィードバックすることができない。
- 1. 生徒の発話の誤りに一貫して気づくことができない。

内省:

意見 (Comment) : 頻繁に しばしば たまに 最近していない したことがない【頻度】

- 4. 生徒の発話を口頭で要約した上で、クラスを意識して、内容的なコメントをすることができる。
- 3. 生徒の発話に対して、内容を踏まえて本人に対して長めのコメントを言うことができる。
- 2. 生徒の発話に対して、短いコメントや状況に応じたほめ言葉を言うことができる。
- 1. 生徒の発話に対して、決まり文句や単純なほめ言葉しか言うことできない。

内省:

評価 (Assessment) : 頻繁に しばしば たまに 最近していない したことがない【頻度】

- 4. 発話のレベルを正確に観点別に判断でき、詳細なアドバイスを与えることができる。
- 3. 発話のレベルをある程度観点別に判断でき、全体的なアドバイスを与えることができる。
- 2. 発話のレベルをある程度観点別に判断できるが、適切なアドバイスをすることができない。
- 1. 発話の全体的なレベルはある程度分かるが、観点別に判断をすることができない。

内省:

文法 (Grammar) :

- 4. 生徒のレベルに合わせて構文の調整を行いながら、詳細な情報を交えてまとまった談話を行うことができる。
- 3. ある程度高度な内容に関しても、事物や人物、時間的前後関係に混乱なく、複数の文をつなげて発話できる。
- 2. 比較的簡単な内容であれば質問なども交えながら単文レベルでの発話のやり取りを行うことができる。
- 1. 語句レベルの発話に留まってしまい自然なやり取りの中で発話を保持するのが困難である。

内省 :

語彙 (Vocabulary) :

- 4. 予期しない話題に関しても、生徒のレベルに合わせて語彙の言い換えを柔軟に行いながら、母語話者の直感的語彙使用に近い自然で適切な語彙を用いた発話を行うことができる。
- 3. ある程度抽象的な話題に関しても、文脈に応じて語彙を効果的に使い分けながら発話を行うことができる。
- 2. 比較的なじみのある具体的な話題であれば、よく知らなかったり、瞬時には思い出せなかったりする語彙を回避しながら、時折不適切な語彙を交えながらも、十分に意味を伝えることができる。
- 1. 十分に準備をして半ば暗記した場合に発話が限られ、その場での状況に応じた発話を行うことが困難である。

内省 :

発音 (Pronunciation) :

- 4. 教養ある話し手として国際的に通用する発音で、よどみなく発話速度等を効果的に調整しながら発話できる。
- 3. 母語なまりは残るものの外国語に慣れていない聞き手にも十分に通じる発音で、不自然でない程度のポーズを交えながら自然な流れで発話できる。
- 2. 時折発音上のなまりから理解が困難なところもあるが十分に推測可能であり、理解の大きな妨げにならない程度のポーズを交えて発話できる。
- 1. 母語なまりが強く理解が困難なことがあり、発話も不自然なポーズが多く、やり取りが中断されがちである。

内省 :

指示と説明 (Instruction and Explanation) :

- 4. 区切れよく効果的に指示を行うことができ、ある程度慣れた内容であれば、準備しない内容に関しても、柔軟に状況に応じて説明やモデルの提示を行うことができる。
- 3. 複雑な指示でも明確に与えることができ、ある程度準備をすれば、メモやテキストに頼らなくても、はっきりと説明やモデルの提示を行うことができる。
- 2. 比較的簡単な指示であれば問題なくこなすことができ、メモやテキストを時折参照すれば、説明やモデルの提示をなんとか行うことができる。
- 1. 比較的簡単な指示であっても手間取ってしまい混乱しがちであり、メモやテキストがあっても、満足のいく説明やモデルの提示を行うことができない。

内省 :

インタラクション (Interaction) :

- 4. 発話内容の理解確認に留まらず、継続的な発話を引き出したり、やり取りをまとめて、クラス全体を意識した適切なコメントを行うことができる。
- 3. 言い直しなどを交えて発話内容の理解確認を行ったり、ある程度クラスを意識しつつ、本人に対して適切なコメントを与えることができる。
- 2. 部分的な発話を促したり、発話の意図の確認を行うことはできるが、言い直しを行ったり、適切なコメントを与えるのは十分とは言えない。
- 1. 発話の繰り返しを求めたり、単純な決まり文句を返すだけで発話を促すことができず、言い直しを行ったり、適切なコメントを与えることもできない。

内省 :